

令和4(2022)年度 資源評価調査状況報告書(新規拡大種)

ブロック：瀬戸内ブロック

シバエビ

海域	瀬戸内海	参加機関	水産研究・教育機構 水産技術研究所 生産技術部(百島)、岡山県農林水産総合センター 水産研究所、福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所、大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 北部水産グループ
----	------	------	---

(1) 調査の概要

<p>参加機関は、本種に関する漁獲量や努力量、CPUE等の情報収集もしくは調査を実施した。詳細については以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">・岡山県は東部(播磨灘)の牛窓町漁協に所属する7隻の小型底びき網漁船による2020年以降の日別の漁獲量と総操業隻数を収集し、有漁時CPUE(kg/日隻)を算出した・また岡山県は東部(播磨灘、牛窓町漁協)および県西部(備讃瀬戸、寄島町漁協)において、小型底びき網標本船(各海域につき1隻)による2020年以降の日別の漁獲量と総操業日数を収集し、月別CPUE(kg/日隻)を算出した・福岡県は周防灘における2019年以降の小型底びき網標本船による年別のCPUE(kg/日隻)を算出した・また福岡県は東部(周防灘)の行橋市魚市場における2019年以降の年間取扱量(kg)についてデータを収集した・大分県は周防灘で操業する小型底びき網標本船2隻による2000年以降の年別の漁獲量と総操業日数を収集し、CPUE(kg/日隻)を算出した・水産技術研は各県の収集したデータを取りまとめた

(2) データ収集状況

<ul style="list-style-type: none">・岡山県は下記データを収集済み<ul style="list-style-type: none">・東部(播磨灘)の牛窓町漁協に所属する7隻の小型底びき網漁船による2020年以降の日別の漁獲量、操業隻数および有漁時CPUE(kg/日隻)・東部(播磨灘、牛窓町漁協)および県西部(備讃瀬戸、寄島町漁協)において、小型底びき網標本船(各海域につき1隻)による2020年以降の日別の漁獲量と操業日数、および月別CPUE(kg/日隻)・福岡県は下記データを収集済み<ul style="list-style-type: none">・周防灘における2019年以降の小型底びき網標本船による日別の漁獲量、操業隻数、および年別CPUE(kg/日隻)・東部(周防灘)の行橋市魚市場における2019年以降の年間取扱量(kg)・大分県は下記データを収集済み

- ・周防灘で操業する小型底びき網標本船2隻による2000年以降の日別の漁獲量、操業隻数数、および年別CPUE (kg/日隻)

(3) 生物学的特性

瀬戸内海の各海域における本種の生物学的特性について記述した。詳細については以下の通り

(1) 分布・回遊：

- ・周防灘では、水深 20 m 程度以浅の泥質底に主に分布する
- ・周防灘全域に広く分布しているが、東部から西部にかけて分布量が多くなる
- ・越冬群はきわめて群集性に富み、冬季でも活動性が高い。本種は当海域における他の有用大型えび（クルマエビ等）に比して低温に強いことが推定される
- ・周防灘の干潟においては、主に7～8月にかけて稚エビ（体長 40 mm 以下）が見られる

(2) 年齢・成長：

- ・周防灘では、体サイズ組成の変化から寿命を推定すると満1年である

(3) 成熟・産卵：

- ・周防灘では、産卵期は6月中旬～9月中旬である

(4) 被捕食関係：

- ・不明

(4) 備考

瀬戸内海の各海域における本種の漁業および関連する各種規制措置等について記載した

- ・岡山県では、漁業者の自主的な取り組みとして、全県において小型底びき網袋網の目合の拡大が行われている
- ・周防灘では主に小型底びき網で漁獲され、山口県では「シラサ」として取引されている
- ・山口県（周防灘）では、春～秋は手繰第二種（えび漕ぎ）、秋～翌年春は手繰第三種（桁網）での操業であるが、周年手繰第二種を操業する漁業者もいる
- ・山口県（周防灘）では、一般的に周年漁獲されるが、出現盛期は沖合の11月～翌年3月である
- ・本種は死後の傷みが早く、鮮度保持が難しいため、山口県では、活魚以外はほとんど市場に出荷されていない。また、漁業者はえび加工業者や仲買人等に「その他えび」として直接出荷するため、漁協・支店も漁獲量等を把握することができない